

第 1 回委員会での主な意見

対象	主な意見
公園のあり方や計画など全般的な内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国営公園の理念として、広域の方に利用してもらうことがあるが、多くの市民団体の方に利用してもらうことは広域利用の理念とは相反しないという理解でよい。 ・ 官民連携による公園利用の活性化や産学官民連携協働による持続可能な里山管理等は、当公園だけでなく、多くの都市公園の課題であるので、<u>当公園でよい事例をつくり、全国に波及させていけるとよい。</u> ・ 地域貢献や広域利用に加えて、<u>神戸空港の国際化に伴うインバウンドの集客も考慮できるとよい。</u>当公園は伝統行事の再現が特徴的で、差別化できる要素だと考える。 ・ 神戸空港の国際化や空飛ぶ車の実現化がある一方、人口減少が進んでいることも踏まえ、<u>将来的なニーズを見据えて計画を立てることで、実現性が上がる</u>と考える。 ・ 公園は<u>地域の方の利用が非常に重要</u>なので、日頃から<u>地域の方や学校団体の方にリピートしてもらう公園づくりが必要</u>である。 ・ 地域の方との協働と、公園外への情報発信の 2 軸で進めて行くことがよい。
関係者との連携について	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>公園に協力していきたい民間事業者は多いと考えるので、上手く連携していけるとよい。</u>ただし、里山の<u>保全ではなく開発にはならないように、気をつける必要がある。</u> ・ 公園と連携したい意向はあっても、ノウハウが無い事業者もいると考えるので、意向のある事業者と、ノウハウを持った事業者をマッチングさせる仕組みが出来るとよい。 ・ これまでは当公園の自然保全や利活用において、市民を巻き込んだ運営ができていたので、<u>これからは民間参加をどう促していくかが重要。</u> ・ 里山の管理はこれまで公共が行ってきたが、里山の魅力をアピールし、<u>民間が里山の管理をするという新しい提案を求めてもよい</u>のではないかと考える。 ・ 保全の活動は市民団体や企業と協力して保全管理が出来る人材育成を行い、最終的にはプレーパークや自然観察会に繋がれるとよい。
里地里山・自然環境保全	<ul style="list-style-type: none"> ・ カーボンニュートラルや循環、生物多様性という<u>キーワードを使って計画を立てていけるとよい。</u>その中でも特に茅場づくりは重要な要素となる。 ・ 自然保全と新しい里山の形を組み合わせ、上手く計画の中で表現できるとよい。 ・ 放置されている自然保全ゾーンでは植生遷移が進み、植物多様性が減少していると考え、<u>今後の具体的な保全計画や必要に応じてモニタリング調査を継続して実施していくことが重要</u>である。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公園の管理者側である事務局の思いだけでなく、公園利用者側からの意見や課題を把握することも必要だと考える。 ・ 計画改定を行っていることを公園関係者にアピールして、早い段階から公園関係者の方を巻き込むことが、雰囲気づくりに繋がると考える。